

アタリ



地凍号 | No. 00002
平成25年11月15日(土)
発行 書肆べう
ながしろぼんり

トモラチトモラチ。

フ エイスブックのイイネ！
ボタンを連打するたびに
イイネ！ 取り消し！ イイ
ネ！ 取り消し！ イイネ！
取り消し！

― 応募録してはいるんです
がね、なんかヒジョーに
持て余しておる。他所の様子
を見ていると「何を書いても
イイネ！ ボタンを押す人」
とか「記事に関係なく『おは
ようございます』ってコメン
トを残す人」とか。もうこれ
はコミュニケーションじゃな
くて、何らかのフラグで動作
しているのしか思えない。日
本語ではない何かでコミュニ
ケーションをとっているよう
である。触覚かな。奥歯によ
るモールス信号かな。尻に電
極が差し込まれてるのかな。

友

達というものの概念がよ
くわかんなくなってきたま
す。友達。今ではSNSをや
っておると自分のシショーで
さえ友達です。師匠ご無沙汰
しています。お歳暮にはビー
ルを送っておきました。友達
― ないしは Friend。SN

Sでつながればみんな友達な
んですかね。俺とあいつは友
達だ、と自分で思ってるだけ
なんじゃないすかね。どうも
その、よくわからない。三回
食事を共にしたら友達だ、と
いう明確な基準を決めている
人もあるらしいけど、実際ど
うかなんてわかったもんじゃ
ない。とりわけフェイスブッ
ク、全く知らない人からフレ
ンド申請が来るのもよくわか
らん。
今 東光和尚は、自分自身が
「相手が『こいつと友達に
なりたい』」と思って向こうか
ら擦り寄ってくるような人間
になんかや駄目だ」とのた
もうておる。この箇所、書
いていて日本語がわかりにく
い自覚はある。

文フリった。

む しろ同日蒲田のP.i.oで
やってたらしいクッキ
クリッカーオンリーイベン
のほうに気になってた童はい
ねがああ(アタシだけだな)。

第

十七回文学フリマ、お越
しい刷っていった当紙「アタリ」
うございました。十五部くら
い刷っていった当紙「アタリ」
創刊号も夕方にはみんな捌け、
そこから第二号を求めてくだ
さればこんなに嬉しい事はな
いっ。みんな、読んでるかえ。
七 月の末、文フリどうしよ
うかなあ、という煩悶の
中心にあるのはぶつちやけ参



東京流通センター前から文学フリマの会場を待ち
並ぶウミネコたち。なお文フリに漁船はない模様。
写真：f.Photo

加費です。ブース一個五円圓
也、である。これに、追加で
椅子を一脚五百圓で貸して
くれる。ついでに交通費がか
かる。よりにもよって東京流
センターである。浜松町から
モノレールに乗る。モノレ
ールは高い。足元を見ておる。
飯も食うであろう。打ち上げ
もあるであろう……という買
い物としてみた時に、じゃあ
ホイホイと出ましよう出しま
しようという金銭感覚ではな
かったのである。ケチと呼び
たければ呼ぶがいい。ケチじ
やなくてこの稼業やつてられ
るかっ。

そ うしていると間アよくフ
ブキナオクモくんが「な
んかする」という。ブースを
半分居すると、椅子一個借り
ても五円五百圓、一人頭式円
七百五十圓。おお、なんと
く「いいんじゃないか」とい
う気がしてきた。結局、実際
の儲けがどう、じゃないんだ
ろう。気持ちの上でどう納得
するかなのである。そう考
えると、時々やる気になる。

べう式「アタリ」は、

書肆べうの発行する冗句と与太話のフ
リーペーパーです。出来れば各自でPDF
をダウンロードし、プリンターなどを駆
使してお楽しみください。A4版です。

御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。

書肆べう : <http://bew.fc2web.com/>

レポートブード



官 伊勢國製成
萬金丹
詩 野間國彦製

マチ子
弁当忘れた
持ってこいハ

無敵煙

商標 萬敵煙



プラットフォーム
インキ

帳

簿を見ると、紙とインク代で壱阡七百圓。当日のブース作成に壱百均で買った棚とかが四百式拾圓。交通費が往復で壱阡貳百圓位。とすると、総製作費がざっくり五阡五百圓弱となる。で、きっかり四阡圓売り上げがあった。壱阡五百圓くらいの赤字である。壱阡五百圓で一日遊べたからいいよね、と考えるとまあアリかなあ、位。商売として考えると全然だけど。文学フリーマーケットなのに。市場のはずなのに。

納 得できるラインをどこにおくか、という話である。本当に市場ならば、突っ込んだお金が回収できて、なおかつ打ち上げの参阡圓くらいは出せるといいよね、というのが個人的な納得ラインなので。それでどうにかなかったのって『文藝三行半。』を出した時の一回だけじゃないかな。あれだって定額給付金をつつこんだからなんじゃけどな。二〇〇九年のことじゃ。

今回ははじめから「儲けとか度外視で、文フリを観察してみよう」というつもりであった。個人的にはかなり革新的な試みである——読んでいる人の失笑が聞こえる。失っているのに聞こえるも何もないか。知らんがなバアチャン！で、感想。コンセプトイブなどころはよく売れてい



文学フリマ書肆べらブース。フブキナオクモと半分居のため、45*45スペースにコンパクトに収まった。

るのかな、という印象。「熟女のセルフヌードを熟女本人が売ってる」とか、流行の「百合」とか、「艦これ」とか。「稲川淳二が中国の古典怪談を語る体小説」というのもあった。「何をやっているかはたから見えて判る」というのはとっつきやすいものな、と一旦納得しかけたんだけど、でも、弊社書肆べら「震災復興インタビューと怪獣小説特集」で大きくコケたではないか！その結果しばらく文フリ辞めてたんじゃないか！このどてかぼちゃ！ウエーン！
うーん。そうするとなんだろうなあ。多分文章を買いに来る客というのは若干テンションの上がりきらない人が多いんだとは思っています。で、通りの真ん中を通る。出るだけブースから距離をとる。で、興味の有りそうなきに海面まで降りてくる。ウミネコか何かか。なお、会場の流通センターの周りにはウミネコと思しき鳥が大量に飛んでおる。集まった人より多

いくらいだし、こうなったらウミネコ向けの本でも作る。これがホントの「うみねこの啼くコロニー」ってやかましわ！なお、表面のウミネコはフリー素材で、青森の漁港なので東京湾とはなんの関係もござんせん。偽装表示だ！
ただ、ブース側のよくわかたらない熱意が面倒くさい、というのもよくわかるのです。イベント的なサクサクで売っちゃおう、みたいなことは昔ほど出来ないかしらん。あれだけブースが増えると身構えるわなあ……。なお「アタリ」創刊号を読んだあとに作品集を書いに戻ってきてくれた人がいたのは超嬉しかったです。
ターリー屋のカレーおいしゅうございました。全体的にほんのり暖かいのもうれしゅうございました。

次 回参加するとしたらそうだなあ。「どうやったらより充実感を得られるか」というのはポイントになると思う。いや、それしかない。ちやんと考えようっと。

通販のおしらせ

・文学フリマに合わせてながしるぼんり作品集12〜14が新発売となりましたが、引き続き1〜11も販売しております。7以外8ページ一冊百円。7が12ページ百五十円です。送料込手数料は一律百円でサービスさせていただきます。

・どれも2枚〜30枚の掌編集。
・お求めの方は danric@gmail.com まで。弊社通販サイトは改装のまま放置中です。

- vol.1 「ちょこつとCHAOS」
- vol.2 「江戸っ子もどき」
- vol.3 「異国ぢよーちょ」
- vol.4 「蕎麦とタヌキ」
- vol.5 「処理場のパンドラ」
- vol.6 「LOVEずっきゅん」
- vol.7 「彼の岸」
- vol.8 「#twnovel傑作選」
- vol.9 「鉛の兵隊と月とギタレレと豚と河童と印度人」
- vol.10 「しいていえばブンガク」
- vol.11 「落語道楽」
- vol.12 「異国ぢよーちょII」
- vol.13 「鬱くしいこっぼん」
- vol.14 「珍休+a」